2025

八頭町はたちのつどい

二十歳を迎える皆さん、

おめでとうございます！

令和7年八頭町「はたちのつどい」が1月3日(金)、八東体育文化センターで開催されました。今年度20歳を迎える方(平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれ)は160人で、そのうち128人が出席し、スーツ姿や華やかな振袖姿に身を包んだ若者が、久しぶりに会う友人との再会を喜びながら思い出話に花を咲かせていました。

式典では、吉田英人町長が「ふるさと八頭の自然を愛し、まちづくりに関心を持ってほしい」とメッセージを送り、その後、来賓の祝辞に続き、小倉大成さんが「はたちの決意」を、山根琉菜さんが謝辞を述べました。

式典後には、はたちのつどい実行委員会主催による「催し会」が行われ、出席した中学校時代の恩師からのメッセージに懐かしむ姿や、豪華景品が当たる抽選会で会場が盛り上がるなど、笑顔と活気に満ちた新年のスタートとなりました。

八頭町が誕生した平成16年度に産声をあげた はたちのみなさん。
町制20周年を迎えるふるさと八頭への思いをメッセージボードに書いてもらいました！

はたちの決意

小倉 大成 さん

現在、私は東京で大学生活を送っています。先日、哲学の授業で教授がこんなことを話されました。

「今の時代の大学生は難しいね。法律上、自由が保証されていることは一見良いことに思えるが、自由すぎて生き方に正解がない。そして、少しでも変わった行動を取ればSNSで罵倒されてしまう。」

今の時代、多様性が尊重され、個性や自分らしさが大切にされる一方で、SNSの普及によってずっと正しい模範的な生き方を求められているような気がします。自分のやりたいことに素直になることが、時には怖く感じることもあります。

子どもは失敗することで成長しますが、大人になると失敗が怖くなってしまうようです。「責任」という概念に囚われ、なかなか一歩を踏み出せなくなる。しかし私は、大人になったからこそ、自分のやりたいことに素直に挑戦し、失敗を恐れずに成長し続けることが大切だと思います。私自身、失敗できる大人でありたいです。失敗から学び、それを次に生かすことで、いつか自分なりの成功を掴みたい。そして、自分の生き方をこの社会に示していきたいと思っています。

私たち一人一人の生きる証が、目一杯に尊重される社会を作りたいです。そのためには、まずは自分自身が恐れずに挑戦し、他者の挑戦を優しく見守ることが必要だと感じています。

謝　辞

山根 琉菜 さん

八頭町で生まれ、ともに過ごした仲間とともに今日という門出の日を迎えられたことを、大変うれしく思います。こうして無事にはたちを迎えることができたのも、いつも変わらぬ愛情を注いでくれた家族、時には厳しくそして親身なって導いていただいた先生方や幼いころから温かく見守ってくださった地域の皆様のお陰です。

今日までの20年間には、私たちそれぞれに様々な出来事があったと思いますが、特に中学卒業から高校生活を終えるまで、新型コロナウイルスの流行により、式典参加者や内容が縮小された入学式に始まり、新しくできた校友もマスクをした顔の印象しかなく、授業や部活動、学園祭や修学旅行など、様々な制約の下で送らざるを得なかった学生生活を経験したことも、どんなことにも前向きに立ち向かい乗り越えていける力をつけさせてくれたと思っています。

令和4年の民法改正で成人年齢が引き下げられ、私たちは18歳で成人を迎えました。現在、社会人として立派に働いている人、自分の夢や目標に向かって学業に励み、努力をしている人など様々であると思いますが、今日のこの日を新たな出発点とし、一人ひとりが自分の行動や言動に責任を持ち、周囲の人に心を配った対応ができるような大人として人生を歩んでいけるよう精進してまいります。